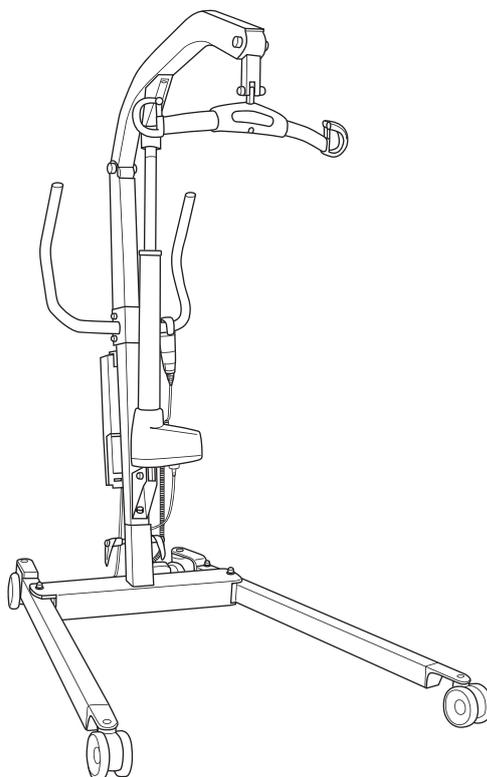


取扱説明書

KZ-A78700

床走行式電動介護リフト

保証書付



まえがき

このたびは、床走行式電動介護リフト(以下、介護リフト)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この「取扱説明書」には、介護リフトを安全にお使いいただくための注意事項と使用方法などを記載しています。

●介護リフトをお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。

●この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。

●お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。

●動作範囲・寸法・角度・質量などの数値の記載がある場合、その数値には多少の誤差が含まれます。特別なものを除きこの「取扱説明書」では、表示を見やすくするため、約・およそといった言葉を省略しております。

●ご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店または直接弊社までお問い合わせください。

●この介護リフトは日本国内専用です。海外では電源電圧が異なるため使用できません。

製造元： **Direct Healthcare**
Group

Advancing Movement & Health®

輸入・販売元：パラマウントベッド株式会社

もくじ

| | |
|--------------------------------|-------|
| ❶使用目的・特長 | 2 |
| ❷各部の名称 | 3 |
| ❸安全に使用するための注意事項 | 4~10 |
| ❹使用方法 | |
| 1.手元スイッチ各部の名称と説明..... | 11 |
| 2.手元スイッチのフックの使いかた..... | 11 |
| 3.コントロールボックス各部の名称と説明..... | 12 |
| 4.ブーム・脚の動かしかた..... | 13~14 |
| 5.介護リフトの移動のしかた..... | 15 |
| 6.スリングシートについて..... | 16~18 |
| ❺バッテリーの取扱いについて | |
| 1.バッテリーについて..... | 19 |
| 2.バッテリー残量の確認..... | 20 |
| 3.充電のしかた..... | 20 |
| 4.バッテリー交換のしかた..... | 21~22 |
| ❻部品の確認 | 23 |
| ❼組立方法 | |
| 1.ブーム・支柱セットの取付け..... | 24 |
| 2.ハンドルの取付け..... | 25 |
| 3.コントロールボックス・バッテリーケースの取付け..... | 25~26 |
| 4.組立後の確認..... | 26 |
| ❽分解方法 | 27 |
| ❾定期点検と日常のお手入れ | |
| 1.定期点検..... | 28 |
| 2.日常のお手入れ..... | 29 |
| ❿故障かな?と思ったら | 30 |
| ⓫長期保管について | 31 |
| ⓬仕様 | 32~33 |
| ⓭アフターサービスについて | 34 |

1 使用目的・特長

■使用目的

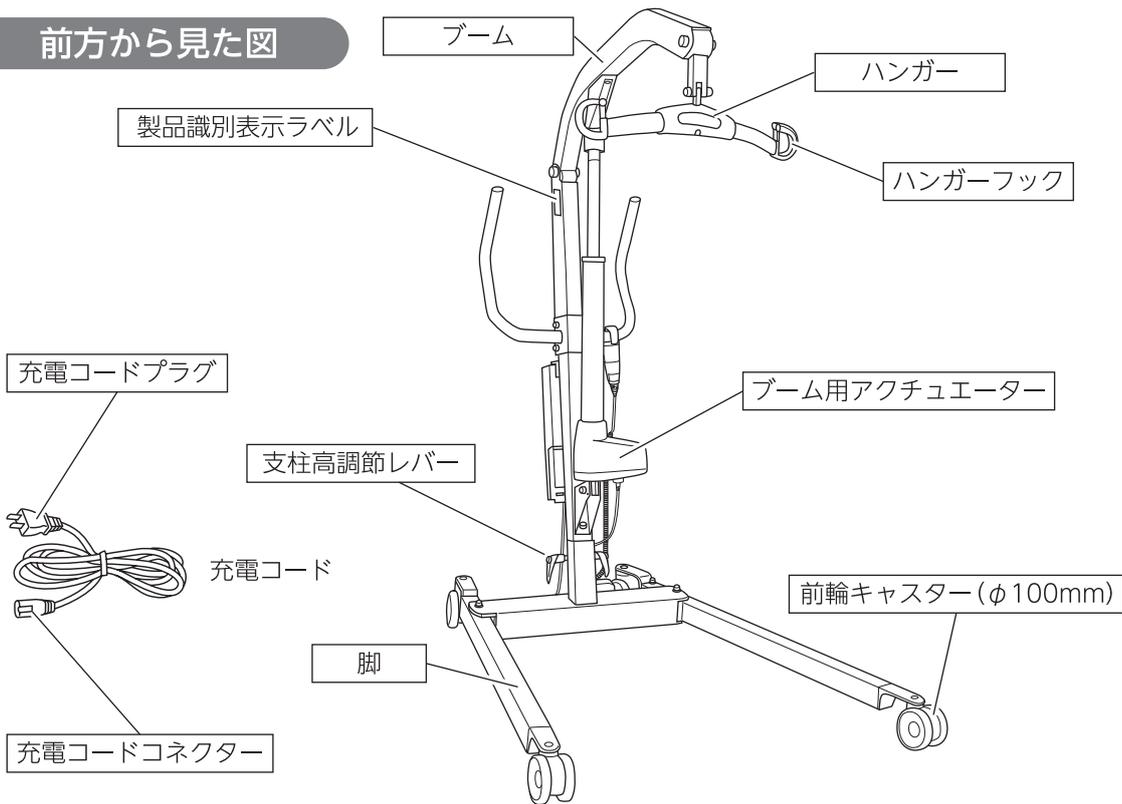
■介護リフトは、ベッドから車いすへの移動など、さまざまな移乗動作を補助し、介護する方の介護負担を軽くすることを目的に作られています。

■特長

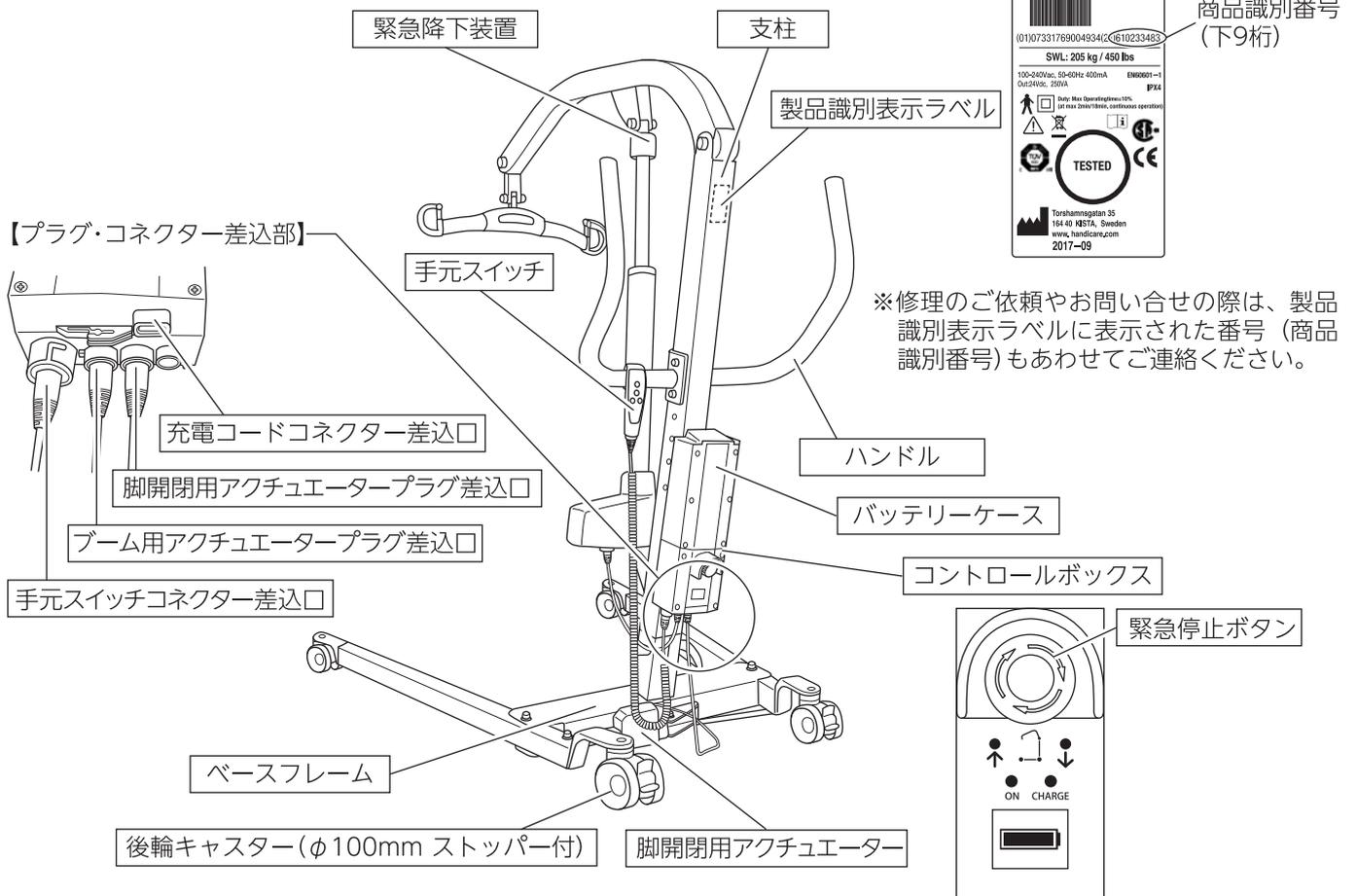
- 手元スイッチにより、ブーム(吊りさげ部)の無段階の上下操作と脚開閉の無段階の調節が可能です。
- 充電式により、電源がない場合でも使用可能です。
- 充電状態やバッテリー残量は、コントロールボックスの液晶パネルで表示しますので、状態が一目でわかります。

2 各部の名称

前方から見た図



後方から見た図



3 安全に使用するための注意事項

■必ずご使用の前にこの「安全に使用するための注意事項」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

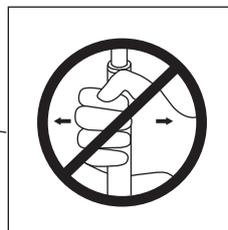
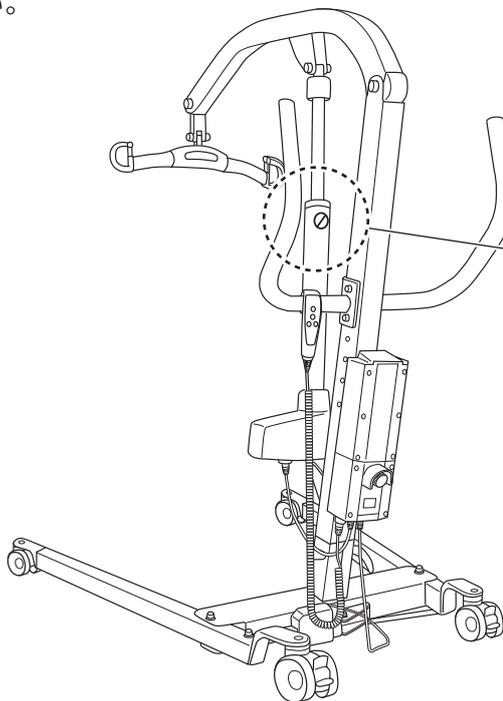
- ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度に応じて「**警告**」と「**注意**」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

| | |
|---|--|
|  警告 | この表示を無視して誤った取扱いをすると、死亡または重傷(骨折・圧迫・麻痺など)を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が軽傷(打撲・すり傷・切り傷など)を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。 |

※取扱説明書をお読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

〔安全ラベルについて〕

- 注意事項の中で、介護リフトをお使いになる方に特に注意していただきたい項目をラベルにして、アクチュエーターに貼ってあります。はがしたり傷つけたりしないでください。
- ラベルが傷ついたり、はがれたりした場合には販売店から新しいラベルを取り寄せ、正しい位置に貼り直してください。



意図せぬ力を加えると破損・変形し、けがをするおそれがある場所を示しています

警告

■介護リフトに直接取付けて使用するスリングシートなどは弊社が指定する適合品をお使いください

- 指定以外の製品と組合せると介護を受ける方が不意に落下して、けがをするおそれがあります。また、介護リフトに負担をかけ、介護リフトが故障するおそれがあります。

3 安全に使用するための注意事項



■スリングシートは、介護を受ける方の身体の状態に適したものをご使用ください。スリングシートの選択に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください

- 介護を受ける方の状態にあったスリングシートを使用しないと、思わぬけがをしたり、皮膚に異常が起こったりするおそれがあります。

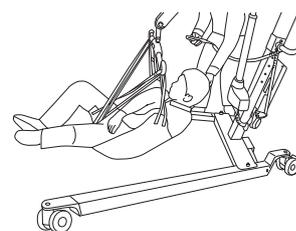
■操作が理解できないと思われる方(12歳以下のお子様や認知症の方など)に操作させないでください

- 操作が理解できないと思われる方が、1人で手元スイッチなどを操作した場合、誤って身体がはさまれるなど、思わぬけがをするおそれがあります。1人で手元スイッチなどに触れる可能性がある場合には、緊急停止ボタンを押込み、誤操作による事故を未然に防いでください。



■ゆかに寝ている方を吊りあげ・吊りさげる際は、介護を受ける方の頭を支柱側に向けて、介護を受ける方の頭を支えてください

- 介護リフトの操作時に、介護を受ける方の足などが、ゆかと脚、ゆかとベースフレームの間にはさまれて、けがをするおそれがあります。
- 昇降中の介護リフトは重心の偏りを防ぐため前後に動くことがあります。そのため、介護リフトの操作時に、介護を受ける方の頭が介護リフトの支柱やアクチュエーター一部に当たってけがをするおそれがあります。



■介護リフトをベッドに近づける際は、介護リフトの周囲に注意してください

- ベッドのキャスターがロック解除されて不意にベッドが動いてけがをするおそれがあります。
- ベッドや家具などに当たり介護リフトやベッド、家具などが破損するおそれがあります。

■介護リフトの脚をベッドの下に差込んで使用するときは、指定された範囲内で使用してください

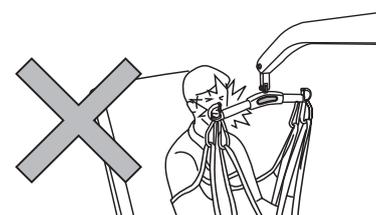
- 指定された範囲外で使用すると、ベッドのキャスターロックが解除され、ベッドが動いて思わぬけがをするおそれがあります。
- 指定された範囲外で使用すると、介護リフトが破損・変形するおそれがあります。
- 指定された範囲につきましては、ベッドの取扱説明書をご確認ください。

■可動部のすき間に、手や指などはさまないように注意してください

- 介護リフトの操作時に、ブームとハンガーの連結部、ブームと支柱の連結部やブームとブーム用アクチュエーターの連結部などにはさまれて、けがをするおそれがあります。

■ハンガーが介護を受ける方の顔などに当たらないように注意してください

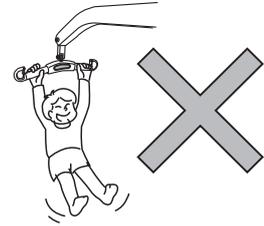
- けがをするおそれがあります。
- 特に、スリングシートを着脱するときは、ハンガーを手で支えて操作してください。ハンガーを手で支えないと、ハンガーが揺れたり回転し、ぶつかってけがをするおそれがあります。



! ^{けい} ^{こく} 警告

■ **お子様に触らせたり、介護リフトの周りで遊ばせたりしないでください**

- 転落・転倒してけがをしたり、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。



■ **ブームやハンガーなどにぶらさがったり、ものを掛けたりしないでください**

- 転落・転倒してけがをしたり、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。

■ **ハンガーフックや突起物に衣類などが絡まないように注意してください**

- 衣類などが絡まった状態で介護リフトを操作すると、衣類などが引っ張られるなどして、けがをするおそれがあります。
- 介護リフトが転倒して、けがをするおそれがあります。

■ **2人以上で使用しないでください**

- この介護リフトは1人用の設計になっています。2人以上で使用すると、介護リフトが破損してけがをするおそれがあります。

■ **介護を受ける方が手元スイッチを操作しないでください**

- 手元スイッチを落とすと、宙ぶりのままとなるおそれがあります。
- 思わぬけがをするおそれがあります。

■ **介護リフトに安全使用荷重を超える荷重を加えないでください**

- 介護を受ける方が落下してけがをしたり、介護リフトの破損・変形の原因となったりします。この介護リフトの安全使用荷重は2000N (205kgf) です。安全使用荷重は、介護リフトを安全に使用できる荷重であり、使用者体重とオプションなどの付帯物の合計荷重です。
- 使用するスリングシートにも最大使用者体重が定められています。スリングシートの最大使用者体重を超える方を吊りあげないでください。スリングシートが破損・変形して、けがをするおそれがあります。

■ **介護を受ける方を吊りあげて移動する際は、介護リフトの取扱いに注意してください**

- 介護リフトが不安定になり、介護リフトが転倒してけがをするおそれがあります。特に以下の点に注意してください。
 - ・ 介護リフトの脚をいっぱいまで開いた状態にしてください。(操作方法は13ページ参照)
 - ・ 段差の乗り越えやスロープなどでの移動はしないでください。
 - ・ 横移動はしないでください。
 - ・ ゆっくりと移動させてください。

■ **介護を受ける方を吊りあげて移動する際は、介護を受ける方から目を離さないでください**

- 介護を受ける方が落下して、けがをするおそれがあります。
- 介護リフトが転倒してけがをしたり、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。

■ **介護を受ける方を吊りあげた状態で、長い距離を移動しないでください**

- 介護リフトが転倒して、けがをするおそれがあります。介護リフトは移乗動作を補助する機器であり、長い距離の移動には適していません。長い距離の移動には、車いすなどをご使用ください。

3 安全に使用するための注意事項

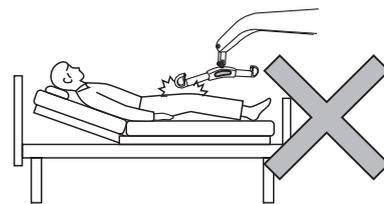


■ 介護を受ける方を吊りあげ、吊りおろす際は、介護リフトの脚をいっばいまで開いてから行ってください(操作方法は13ページ参照)

- 介護リフトが不安定になり、転倒してけがをするおそれがあります。

■ 介護リフト操作時およびベッド操作時は、介護リフトの周囲に注意してください

- ベッドとハンガーの間にはさまれたり、ハンガーに当たったりしてけがをするおそれがあります。
- ブームやハンガーが人に当たってけがをしたり、ベッドや家具などに当たり破損したりするおそれがあります。
- ハンガーフックがサイドレールなどに引っ掛かり、介護リフトやサイドレールなどが破損・変形するおそれがあります。
- 介護リフト(特に、脚部・ブーム・ハンガー・アクチュエーター)が壁などに当たり、介護リフトや壁などが破損・変形するおそれがあります。
- ベッドと介護リフトの脚部やアクチュエーター部などが当たり、破損・変形するおそれがあります。



■ 昇降中は介護リフトの後輪キャスターのストッパーはロックしないでください

- 後輪キャスターのストッパーをロックした状態で昇降操作を行うと重心が偏り、介護リフトが転倒してけがをするおそれがあります。
- 昇降中の介護リフトは重心の偏りを防ぐため前後に動くことがあります。そのため昇降中の介護リフトは後輪キャスターのストッパーのロックが解除になっている状態が最も安定しています。後輪キャスターのストッパーのロックは、停止中や保管時などにご使用ください。

■ 介護リフトの脚をベッドの下に差込んでいるときは、ベッドの操作をしないでください。また、介護リフトの後輪キャスターのストッパーはロックしないでください

- ベッドと介護リフトが当たり、介護リフトが破損・変形したり、介護リフトが転倒してけがをしたりするおそれがあります。

■ スリングシートのストラップ(ループ)は、ハンガーフックに確実にかけてください

- ストラップ(ループ)が外れた状態でブームをあげると、介護を受ける方に苦痛を与えるばかりでなく、介護を受ける方がスリングシートから落下して、けがをするおそれがあります。

■ スリングシートは正しく装着してください(装着方法は16~18ページ参照)

- 介護を受ける方を吊りあげたときに介護を受ける方がスリングシートから抜け落ちたり、皮膚がこすれたりするなどしてけがをするおそれがあります。
- ご使用前にスリングシートの取扱説明書をよくお読みください。

■ 支柱高調節レバーは、確実に固定してください

- 使用中にベースフレームからブーム・支柱セットが外れ、けがをするおそれがあります。

■ 組立ておよび分解作業時には、ブーム・支柱セットの取扱いに注意してください

- ブーム・支柱セットが落下してけがをしたり、ブーム・支柱セットやゆかなどが破損・変形したりするおそれがあります。
- 可動部のすき間に手や指などがはさまれて、けがをするおそれがあります。
- ブーム・支柱セットが人に当たってけがをしたり、ベッドや家具などが破損・変形したりするおそれがあります。

警告

■滑りやすいゆかでは使用しないでください

- ほこりや水分などの浮いたゆかや滑りやすいゆかでは、介護リフトを使用しないでください。介護リフトが動きやすくなり、転倒してけがをするおそれがあります。

■段差やスロープのある場所では移動しないでください

- 介護リフトが段差やスロープに引っ掛かって走行できなくなったり、介護リフトが転倒してけがをしたたり故障の原因となったりします。やむを得ない場合は介護リフトをできるだけゆっくりと動かしてください。介護リフトが引っ掛かって走行できなくなった場合は、介護リフトを持ちあげてください。

■介護リフトの移動は、ハンドルを持って行ってください

- ハンドル以外を持って移動すると、バランスが崩れ、介護リフトが転倒してけがをするおそれがあります。



■充電コードプラグにほこりを付着させないでください

- 充電コードプラグの表面にほこりが付着していると水分を含んで電流が流れ、ショートなどにより、感電・火災のおそれがあります。
- 充電コードプラグの表面にほこりが付着している場合、乾いた布などでよく拭き取ってください。

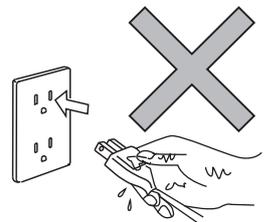


■充電コードプラグに無理な力を加えないでください

- 充電コードプラグが破損し、感電・火災のおそれがあります。

■充電コードプラグなどを濡れた手で抜き差ししないでください

- ショートして感電したり、故障したりするおそれがあります。



■充電コードプラグなどを抜く際は、プラグ部を持って抜いてください

- コードのみを持って引き抜くとコードが傷んで、感電・火災のおそれがあります。

■充電コードプラグをコンセントに差したまま介護リフトを移動させないでください

- 充電コードプラグやコントロールボックスのプラグ・コネクタ部に無理な力が加わって破損し、感電・火災のおそれがあります。

■お手入れを行う際は、緊急停止ボタンを押込んでください

- 誤操作により介護リフトが動いて、けがをするおそれがあります。

■コード類(充電コードなど)を傷つけないでください

- コード類が破損し、感電・火災のおそれがあります。
 - ・介護リフトの可動部でコード類をはさまないようにしてください。
 - ・コード類に重いものを置いたり無理な力を加えたりしないようにしてください。
 - ・介護リフトでコード類を踏みつけないでください。
 - ・脚やベースフレームでコード類をはさまないようにしてください。
- 傷んだコード類は修理(交換)を依頼してください。

3 安全に使用するための注意事項



■湿気の多い場所(風呂場など)では使用しないでください

- アクチュエーターや手元スイッチなどの電装品に水分が浸入すると、ショートして感電したり、故障の原因となったりします。水などで濡らしてしまった場合には、緊急停止ボタンを押込んで、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。

■介護リフトに水などをかけないでください

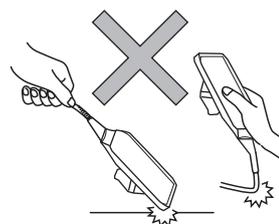
- アクチュエーターや手元スイッチなどの電装品が濡れると、ショートして感電したり、故障の原因となったりします。水などで濡らしてしまった場合には、緊急停止ボタンを押込んで、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。

■電子治療器を使用するときは緊急停止ボタンを押込んでください

- 電子治療器(マイクロ波治療器、超短波治療器など)を同時に使用した場合、介護リフトの故障や誤動作の原因となります。
- 他のME機器と併用する際は、安全をご確認の上使用してください。

■手元スイッチなどの取扱いに注意してください

- 介護リフトが誤動作してけがをしたり、故障の原因となったりします。また、ショートなどにより感電・火災のおそれがあります。
 - ・ぶついたり、傷つけたりしないでください。
 - ・落としたり、コードを無理に引っ張ったりしないでください。
 - ・介護リフトでコードを踏んだり、はさんだりしないようにしてください。
- 傷んだ手元スイッチなどは修理(交換)を依頼してください。



■介護を受ける方の症状にあわせて、使用してください

- 介護を受ける方の症状によっては、介護リフトの操作で症状を悪化させる可能性があります。介護リフトのご使用に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。
- 関節などに痛みが生じやすい方、床ずれのできやすい方などを吊りあげるときは、慎重に操作してください。

■お客様による修理・改造はしないでください

- 意図せぬすき間の発生や異常動作などにより、けがをするおそれがあります。

■充電コードや手元スイッチのコードに足を引っ掛けないようにしてください

- プラグやコードが破損し、感電・火災のおそれがあります。
- 転倒して、けがをするおそれがあります。

■介護リフトは定期的に点検してください

- 使用の頻度や環境により、製品は摩耗・劣化します。定期的に各部のゆるみ、可動部の動作、破損や異音の有無などを点検してください。思わぬけがをするおそれがあります。

■被災した介護リフトは点検・修理を依頼してください

- 地震・火災・水害などで被災した介護リフトは、お買い上げの販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)まで、点検・修理をご依頼ください。電装品のショートや感電・火災、介護リフトの変形による動作の異常によって、けがをするおそれがあります。

■火気に近づけないでください

- 介護リフトの近くで、ストーブなどの熱器具を使用しないでください。変質・変形・火災などの原因となります。

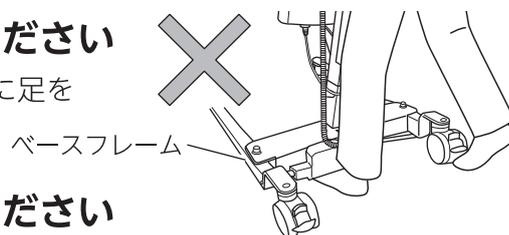
■介護リフトから異常な音がする際は、介護リフトを使用しないでください

- 介護リフトが破損し、感電・火災のおそれがあります。
- 落下してけがをするおそれがあります。
- 介護リフトから異常な音がする際は、お買い上げの販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)まで点検・修理をご依頼ください。

注意

■介護リフトを移動するときは、足元に注意してください

- ベースフレームとゆかの間に足をはさまれたり、キャスターに足を踏まれたりして、けがをするおそれがあります。



■介護リフトを移動するときは、段差に注意してください

- 脚やキャスターなどが破損・変形するおそれがあります。

■介護リフトをベッドに近づける際は注意してください

- ベッドの種類によっては、介護リフトの脚がベッドに接触し、介護リフトやベッドが破損・変形するおそれがあります。

■ハンガーフックがIVポール・IVスタンドのフックやノブボルトに引っ掛からないように注意してください

- 介護リフトやIVポール・IVスタンドが破損・変形するおそれがあります。

■使用後はブームをさげてください

- ブームをあげたままにするとハンガーに顔をぶつけるなど、けがをするおそれがあります。

■温度が低いときには介護リフトを使用しないでください(5℃未満)

- アクチュエーターの使用可能温度は、5～40℃です。5℃未満の場所で使用する場合、ブームが動かずアクチュエーターが破損するおそれがあります。温度があがってからご使用ください。

■介護を受ける方を吊り上げる際は、脚を開脚させて安定した状態にしてから行ってください

- 介護を受けている方を吊りあげた状態で脚の開閉操作を行うと、脚が破損・変形するおそれがあります。

■最大連続使用時間を超えてブームのあげ・さげおよび脚の開閉を行わないでください

- アクチュエーターの最大連続使用時間は2分です。最大連続使用時間を超えて使用すると、電装品が故障するおそれがあります。

■バッテリーの充電量に注意してください

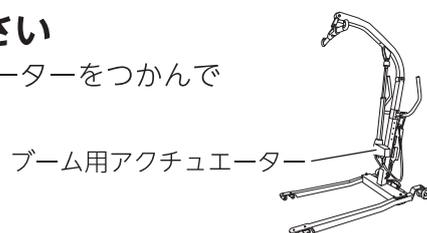
- バッテリーの充電量が不足していると使用中に動かなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりします。
- バッテリーはこまめに充電してください。
- 保管が長期にわたる場合、3ヶ月に一度は充電を行ってください。
- 長時間充電しても動作時間が短い場合は、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。

■スプレータイプの殺虫剤を介護リフトに直接噴射しないでください

- 殺虫剤に含まれる溶剤によって、介護リフトの樹脂部分が破損・変色・溶解するおそれがあります。また、破損・溶解した部分で思わぬけがをするおそれがありますので十分ご注意ください。

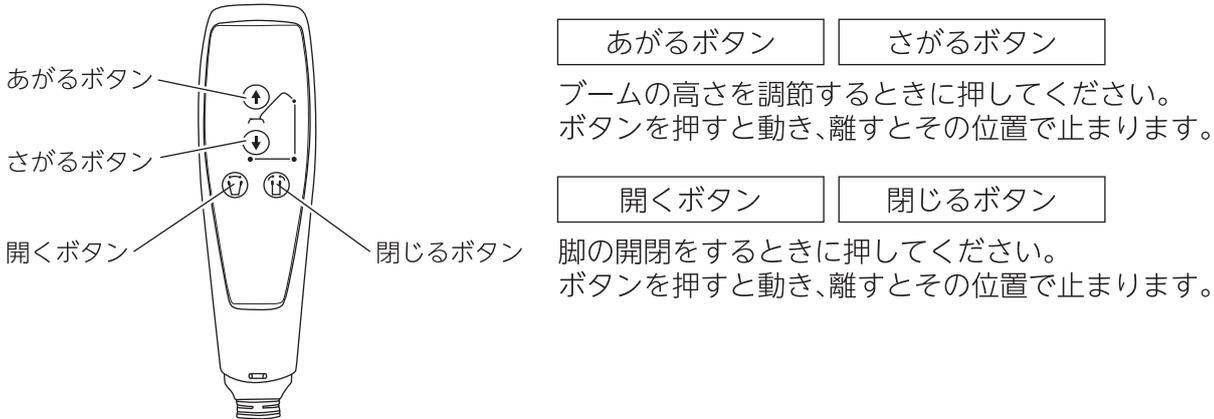
■ブーム用アクチュエーターの取扱いに注意してください

- ブーム用アクチュエーターの先端を押ししたり、ブーム用アクチュエーターをつかんで介護リフトを移動させると、破損・変形するおそれがあります。
- ブーム用アクチュエーターをつかむと、手や衣類にグリスが付着して汚れるおそれがあります。



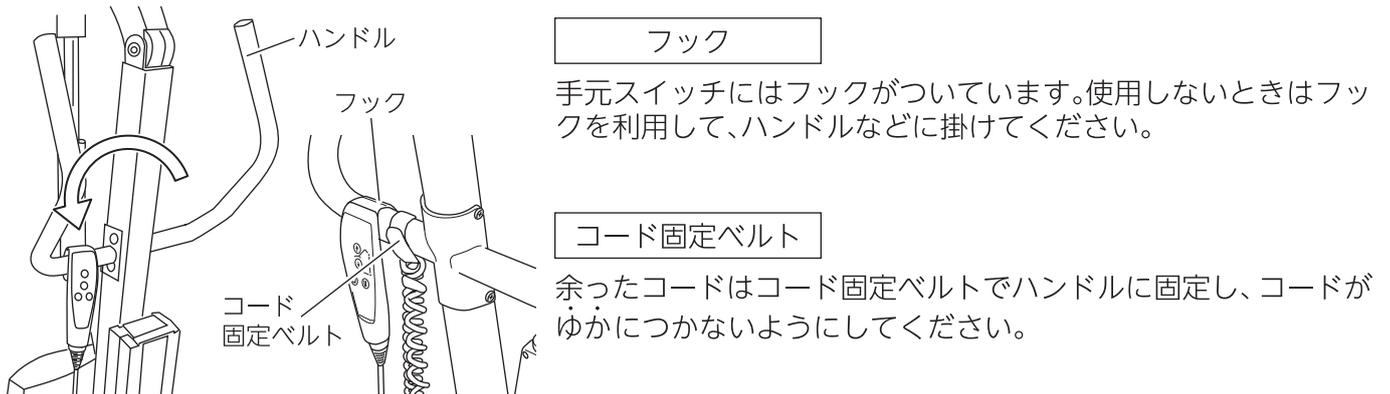
4 使用方法

1. 手元スイッチ各部の名称と説明

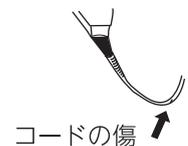
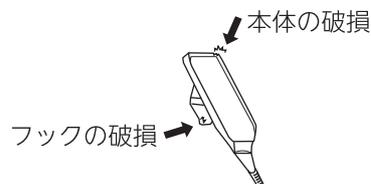
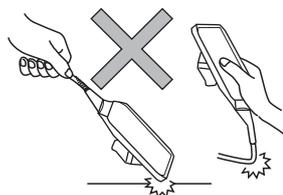


手元スイッチは、2モータータイプ専用のものを取付けてご使用ください。
正しく機能しないおそれがあります。

2. 手元スイッチのフックの使いかた

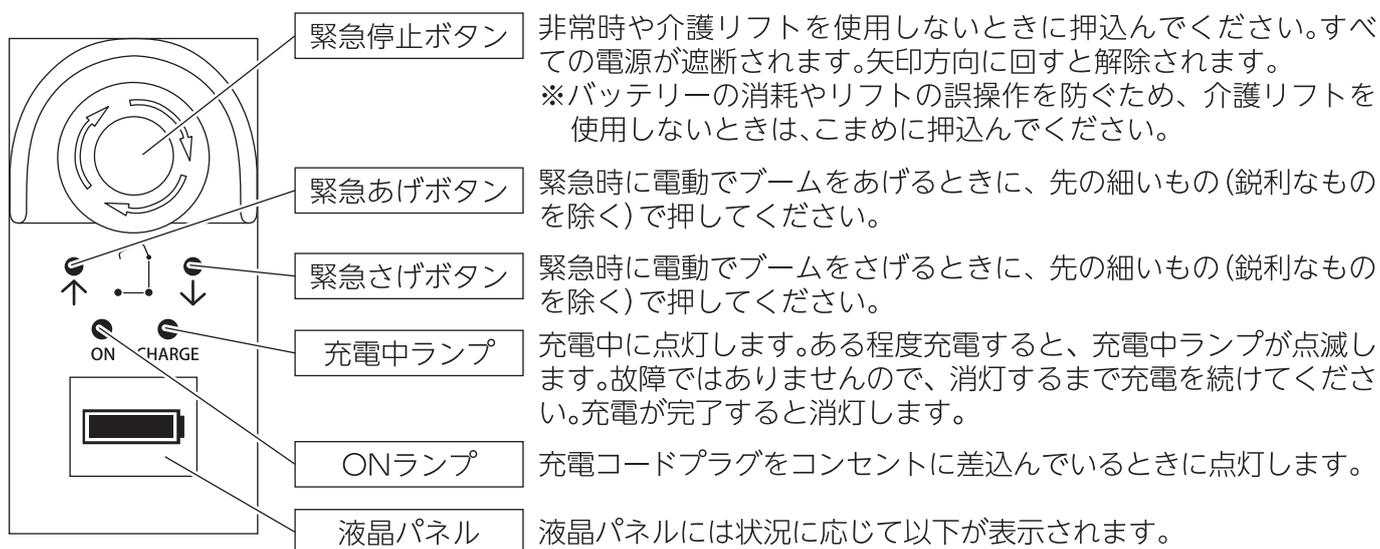


- 手元スイッチを使用しないときは、ハンドルなどに引っ掛け、ベッド上やゆかに置かないでください。誤ってボタンが押され、意図せぬブームや脚の動きにより、けがをするおそれがあります。
- 手元スイッチの取扱いに注意してください。介護リフトが誤動作してけがをしたり、故障の原因となったりします。また、ショートなどにより感電・火災のおそれがあります。
 - ・ぶついたり、傷つけたりしないでください。
 - ・落としたり、コードを無理に引っ張ったりしないでください。
 - ・介護リフトでコードを踏んだり、はさんだりしないようにしてください。



- 傷んだ手元スイッチは修理(交換)を依頼してください。

3. コントロールボックス各部の名称と説明



【バッテリー残量表示】

緊急停止ボタンを解除した後、手元スイッチのボタンを1秒以上押して手を離すと、バッテリー残量が表示されます。



十分に残っています。



バッテリーの容量が不足しています。
使用をやめて直ちに充電してください。



中位です。



ここまでの使用は絶対におやめください。

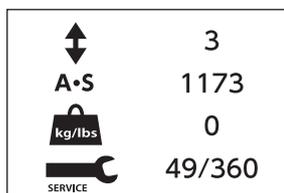
【お知らせ表示】



ブームのあげ操作をしているときに表示されます。



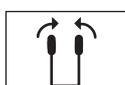
ブームのさげ操作をしているときに表示されます。



手元スイッチのあがるボタンを0.5秒押して手を離すと、左の画面が表示されます。この表示は介護リフトの操作履歴を表すものであり、故障ではありません。画面のイラスト・数字は下記を示しています。画面の表示内容についてご不明な場合はパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。手元スイッチのボタンから手を離して、30秒経過すると表示は自動で消えます。



脚を開く操作をしているときに表示されます。



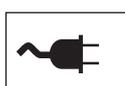
脚を閉じる操作をしているときに表示されます。



荷重オーバーです。この状態では手元スイッチで操作しても介護リフトは動きません。



アームを40cmあげ・さげすると1カウントとして数えます。



充電コードプラグがコンセントに差込まれたままです。この状態では手元スイッチで操作しても介護リフトは動きません。



A·S アクチュエーターに流れた電流と流れた時間の積算値です。



28ページの「1.定期点検」を参照のうえ、定期点検(動作確認、破損の有無、ゆるみなど)を行ってください。1年に1回表示されます。安全にご使用いただくために、1年に1回は定期的に点検してください。1年経過すると再表示されます。手元スイッチの「あがるボタン」と「さがるボタン」を同時に5秒以上押すと「ピッ」と音がして表示が消え、経過した日数をリセットすることができます。



kg/lbs 荷重オーバーとなった回数です。



SERVICE 前回の定期点検から経過した日数です。

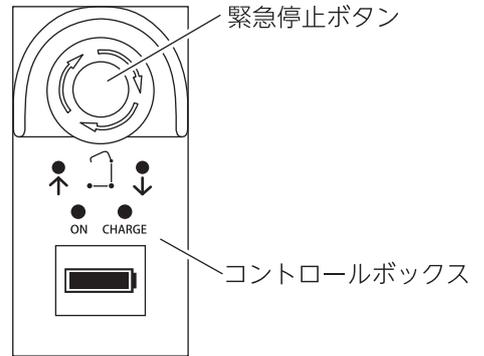
4 使用方法

4. ブーム・脚の動かしかた



介護リフトを使用する前に、バッテリー残量を確認し、不足の場合は、充電してください(20ページ参照)。使用中にリフトが動かなくなるおそれがあります。

■ご使用の際は、コントロールボックスの緊急停止ボタンを矢印の方向にまわして解除してください。ボタンが押込まれた状態では手元スイッチで操作しても介護リフトは動きません。



ブームをあげるとき

手元スイッチのあがるボタンを押してください。

脚を開くとき

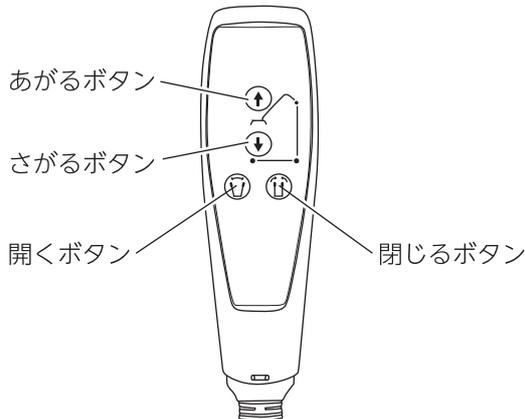
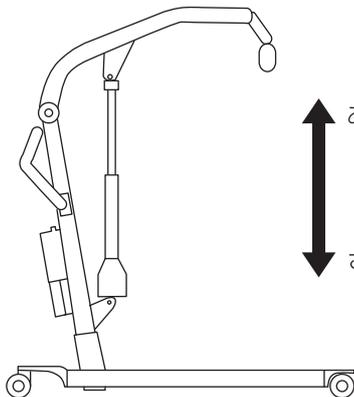
手元スイッチの開くボタンを押してください。

ブームをさげるとき

手元スイッチのさがるボタンを押してください。

脚を閉じるとき

手元スイッチの閉じるボタンを押してください。



- ブームの高さと脚の開閉は無段階で自由に調節できます。
- ブームまたは脚が動作しないときは、30ページの「故障かな？と思ったら」を参照してください。
- さがるボタンを押している場合でも、ブームに下から力が加わるとブームの降下は止まります。これは、安全機構によるもので故障ではありません。

【緊急停止について】

■非常時にはコントロールボックスの緊急停止ボタンを押込んでください。ブームの昇降動作・脚の開閉動作が止まります。矢印の方向にまわすと解除されます。



操作が理解できないと思われる方（12歳以下のお子様や認知症の方など）に操作させないでください。操作が理解できないと思われる方が、1人で手元スイッチなどを操作した場合、誤って身体がはさまれるなど、思わぬけがをするおそれがあります。1人で手元スイッチに触れる可能性がある場合には、緊急停止ボタンを押込み、誤操作による事故を未然に防いでください。



手元スイッチを操作しながら緊急停止ボタンを押さないでください。一時的に高い電流が流れ、バッテリーケース内のヒューズが切れるおそれがあります。



バッテリーの消耗を防ぐため、介護リフトを使用しないときは緊急停止ボタンを押込んでおいてください。

【緊急操作について】

■緊急時に手動または電動でブームを操作することができます。



- 緊急時に手動や電動で降下操作を行うときは、身体のはさまれなどに注意してください。ベッドとハンガーの間にはさまれたり、ハンガーが身体に当たったりしてけがをするおそれがあります。
- 手動で緊急降下操作を行う際は、片方の手で緊急降下装置を操作し、もう片方の手で介護を受ける方の身体を支えてください。介護リフトが不安定になり、転倒してけがをするおそれがあります。



- 緊急降下装置を操作するときは、ブーム用アクチュエーターをつかまさないでください。手や衣服にグリスが付着して汚れたり、ブーム用アクチュエーターが破損したりするおそれがあります。
- 緊急降下装置の操作中は、手元スイッチの操作を行わないでください。ブーム用アクチュエーターが破損するおそれがあります。

緊急時に手動でさげるとき

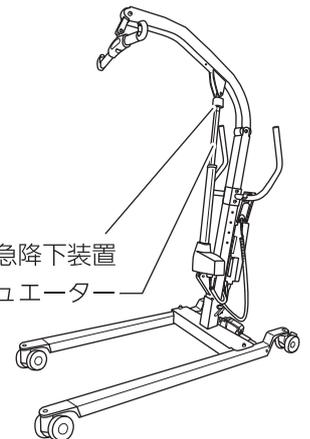
ブーム用アクチュエーターの先端にある緊急降下装置を矢印方向にゆっくりと回転させてください。



- 緊急降下装置でブームをあげることはできません。
- 緊急時以外は使用しないでください。



矢印方向に回転



緊急降下装置

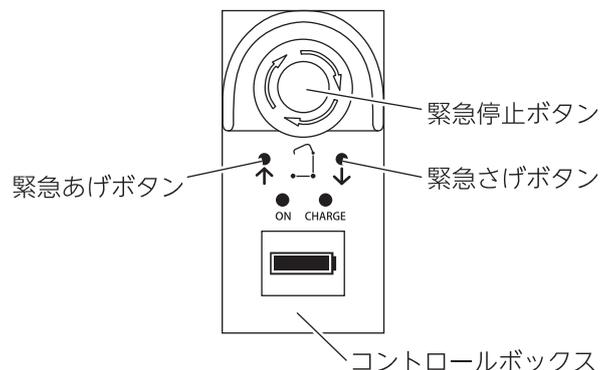
ブーム用アクチュエーター

緊急時に電動であげ・さげするとき

コントロールボックスにある緊急あげボタンを押すとブームがあがり、緊急さげボタンを押すとブームがさがります。ボタンは先の細いもの（鋭利なものを除く）で押してください。



- 緊急時以外は使用しないでください。
- ご使用の際は、コントロールボックスの緊急停止ボタンを矢印の方向にまわして解除してください。ボタンが押込まれた状態では緊急電動操作はできません。
- 緊急さげボタンを押している場合でも、ブームに下から力が加わるとブームの降下は止まります。これは、安全機構によるもので故障ではありません。



緊急停止ボタン

緊急あげボタン

緊急さげボタン

コントロールボックス



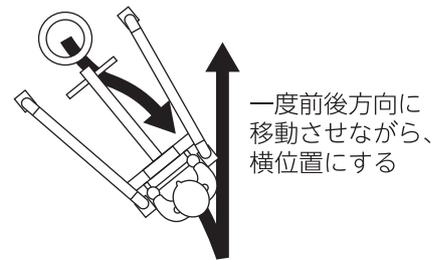
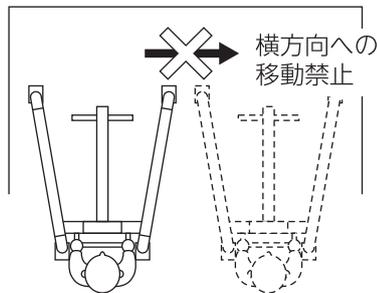
- 緊急電動操作を行いながら、手元スイッチの操作や緊急停止ボタンを押さないでください。一時的に高い電流が流れ、バッテリーケース内のヒューズが切れるおそれがあります。
- 緊急電動操作は、先の細いもの（鋭利なものを除く）でボタンを軽く押して行ってください。シャープペンシルを使用する場合は、芯を出したままで行わないでください。芯が折れてボタンとケースの間にはさまると、コントロールボックスの故障の原因となります。

4 使用方法

5. 介護リフトの移動のしかた



- 介護を受ける方を吊りあげた状態で移動する際は、介護リフトの取扱いに注意してください。介護リフトが不安定になり、介護リフトが転倒してけがをするおそれがあります。特に以下の点に注意してください。
 - ・介護リフトの脚をいっぱいまで開いた状態にしてください。
(操作方法は下記の「移動させるとき」を参照)
 - ・段差の乗り越えやスロープなどでの移動はしないでください。
 - ・横移動はしないでください。
 - ・ゆっくりと移動させてください。
- 介護を受ける方を吊りあげた状態で、長い距離を移動しないでください。介護リフトが転倒して、けがをするおそれがあります。介護リフトは移乗動作を補助する機器であり、長い距離の移動には適していません。長い距離の移動には、車いすなどをご使用ください。
- 介護を受ける方を吊りあげた状態で、介護リフトを直接、横方向へ移動しないでください。転倒して、けがをするおそれがあります。横方向に移動するときは、図のように後輪キャスターを振りながら前・後進して、位置を変えてください。



- 介護リフトの脚をベッドの下に差込んで使用するときには、指定された範囲内で使用してください。指定された範囲外で使用すると、ベッドのキャスターロックが解除され、ベッドが動いて思わぬけがをするおそれがあります。また、介護リフトが破損・変形するおそれがあります。指定された範囲につきましては、ベッドの取扱説明書をご確認ください。



- 移動するときは、足元に注意してください。ベースフレームとゆかの間に足をはさまれたり、キャスターに足を踏まれたりして、けがをするおそれがあります。
- たたみの上では使用しないでください。キャスターとの摩擦により、たたみが切れるおそれがあります。また、ゆかの条件によっては移動する際に力を要する場合があります。状況によりフローリングに替える、タイルカーペットを敷くなどしてご使用ください。
- 介護リフトを移動させるときは、アクチュエーターをつかましないでください。手や衣服にグリスが付着して汚れたり、アクチュエーターが破損したりするおそれがあります。

移動させるとき

- ①後輪キャスターのストッパーのロックを解除してください。
- ②手元スイッチの開くボタン(13ページ参照)を押し、脚をいっぱいまで開いてください。
- ③ハンドルを持って介護リフトを移動してください。
 - 介護を受ける方を吊りあげた状態で介護リフトを移動するときは、特に慎重に、ゆっくり行ってください。
 - 移動動作は、押すよりも引く力を利用した方が容易に行えます。



6. スリングシートについて

■スリングシートには、脚分離型やセパレート型などがあります。スリングシートの選択にあたっては、介護を受ける方の症状や体型などにあわせて選んでください。

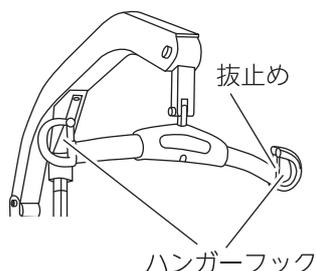


介護リフトを使用後、スリングシートが当たっていたところ(太ももの裏側など)の皮膚に変化がないか確認してください。スリングシートが当たっていたところが赤くなったまま戻らないときは、直ちに医師の診察を受けてください。



- 介護リフトに直接取付けて使用するスリングシートなどは弊社が指定する適合品をお使いください。指定以外の製品と組合せると介護を受ける方が不意に落下して、けがをするおそれがあります。また、介護リフトに負担をかけ、介護リフトが故障するおそれがあります。
- スリングシートは、介護を受ける方の身体の状態に適したものをご使用ください。スリングシートの選択に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。介護を受ける方の状態にあったスリングシートを使用しないと、思わぬけがをしたり、皮膚に異常が起こったりするおそれがあります。
- 介護を受ける方の身体の大きさにあった適切なサイズのスリングシートを使用してください。サイズのあわないものを使用すると、正しい吊りあげ姿勢がとれないばかりでなく、落下してけがをするおそれがあります。
- スリングシートは消耗品です。ご使用前には、スリングシートのストラップ(ループ)の摩耗や糸のほつれ、メッシュ部の破れがないことを確認してください。摩耗・損傷した状態で使用するとスリングシートが破損し、介護を受ける方が落下してけがをするおそれがあります。早めに新しいスリングシートと交換してください。
- ご使用前にスリングシートの取扱説明書をよくお読みいただき、スリングシートの正しい使用方法を理解してください。間違った方法で使用しますと、介護を受ける方に苦痛を与えるばかりでなく、介護を受ける方がスリングシートから落下して、けがをするおそれがあります。

■スリングシートの取扱説明書に従い、スリングシートのストラップ(ループ)をハンガーフックに確実にかけてください。その際、ハンガーフックの抜止めでフック開口部が完全に閉じていることを確認してください。



4 使用方法

6. スリングシートについて

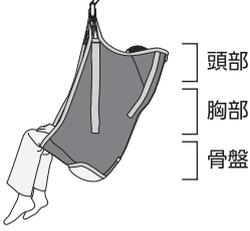
- 用途にあわせてお選びいただけます。
- 本製品には〈スリングシート タイプ別一覧〉に記載されたスリングシートが適合します。適合品の品番やその他のスリングシートの適合につきましては、販売店または直接弊社までお問い合わせください。

脚分離型

片足ずつ分けて支えます。
 座位で着脱できる標準型のスリングシートです。
 身体との接触面積がシート型に次いで大きいので、
 吊りあげが安定しています。

※身体機能との適合範囲が比較的広いですが、
 股関節の固定力が弱いとお尻が落ちやすくなります。

〈スリングシート タイプ別一覧〉

| | |
|---|---|
| <p>ローバックタイプ (骨盤部の支持で座れる方に)</p>  <p>骨盤</p> |  <p>ローバックR 脚分離型ライトスリング KQ-T57シリーズ</p> |
| <p>ミドルバックタイプ (体幹の支持を必要とする方に)</p>  <p>胸部 骨盤</p> |  <p>ベーシックR</p> |
| <p>ハイバックタイプ (頭部の支持を必要とする方に)</p>  <p>頭部 胸部 骨盤</p> |  <p>ハイバックR フレキシブルR脚分離型 KQ-T58シリーズ</p> |



スリングシートは正しく装着してください。

- ・介護を受ける方を吊りあげたときに介護を受ける方がスリングシートから抜け落ちたり、皮膚がこすれたりするなどしてけがをするおそれがあります。
- ・ご使用前にスリングシートの取扱説明書をよくお読みください。

| シート型 | セパレート型(ベルト型) | ハイジーン型(トイレ用) |
|--|---|---|
| <p>1枚のシートで身体を包み込みます。身体との接触面積が大きく、股関節にかかる力が少ないので、ご本人様への負担が軽減されます。</p> <p>※座位で着脱はできません。臥位で行います。車いす着座後は敷き込んだままになります。</p> | <p>2本のベルトで背と太ももを支えます。着脱はもっとも簡単です。吊りあげた状態で下着の着脱ができるので、トイレへの移乗や排泄介助にも利用できます。</p> <p>※身体機能との適合範囲がもっとも狭く、状態によってはベルトの間から抜け落ちる、ベルトの上を滑り落ちる可能性があります。</p> | <p>脚分離型のお尻の覆いを小さくした形状です。吊りあげた状態で下着の着脱ができるので、トイレへの移乗や排泄介助にも適しています。</p> <p>※脚分離型とセパレート型との中間的な吊り具です。身体機能によってはお尻が落ちやすくなります。</p> |
|  <p>KQ-T55シリーズ</p> |  <p>KQ-T59シリーズ</p> |  <p>ハイジーンスリング ハイジーンR ローバック</p> |
|  <p>クラシックR</p> | | |
|  <p>クラシック ハイバックR フレキシブルR シート型 KQ-T56シリーズ</p> | |  <p>ハイジーンRハイバック</p> |

■その他のスリングシート

- 上記の他にも様々なスリングシートを準備させて頂いております。販売店または直接弊社までお問い合わせください。

5 バッテリーの取扱いについて

1. バッテリーについて

| | |
|--|---|
|  <p>けい 警 こく 告</p> | <ul style="list-style-type: none">●コード類(充電コードなど)を傷つけないでください。コード類が破損し、感電・火災のおそれがあります。傷んだコード類は修理(交換)を依頼してください。●充電コードプラグなどを濡れた手で抜き差ししないでください。ショートして感電したり、故障したりするおそれがあります。●充電コードプラグを、コンセントに差込んだ状態でバッテリーの交換作業をしないでください。感電のおそれがあります。●充電コードプラグなどを抜く際は、プラグ部などを持って抜いてください。コードのみを持って引き抜くとコードが傷んで、感電・火災のおそれがあります。 |
|--|---|

| | |
|--|---|
|  <p>ちゅう 注 い 意</p> | <p>交換したバッテリーの処分については、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。バッテリーには有害な化学物質などが含まれていますので、正しい方法で処分しないと環境汚染の原因となります。</p> |
|--|---|

■バッテリーの種類

12V・2.9Ah・小型シール鉛蓄電池 2個

■バッテリーの寿命

小型シール鉛蓄電池はバッテリーを使いきってから充電するタイプではありません。バッテリーを使いきってから充電を繰り返したり、充電不足のまま繰り返して使用した場合は、寿命が短くなります。使用後は、必ず充電をしてください。バッテリーの寿命は、バッテリーの使用頻度、使用環境、保管状態などにより大きく変わります。(バッテリーの使用の有無にかかわらず、2年で寿命が尽きるものが出始め、5年でほとんどの寿命が尽きます)

■バッテリーの保管

バッテリーは自己放電します。保管の際は、周囲の温度の低い場所で保管してください。また、必ず完全充電状態にしてから保管してください。輸送や保管後は自己放電していますので、使用を再開する前に必ず充電をしてください。保管が長期にわたる場合は、その間の自己放電を補うため、3ヶ月に一度は充電を行ってください。完全に放電したまま放置すると、バッテリーの寿命が短くなります。

■バッテリー残量を表示したままにしておきますと、バッテリーが消耗します。使用しないときは緊急停止ボタンを押込んで、バッテリー残量の表示を解除してください。

(※緊急停止ボタンを押込んでいても、バッテリーは自己放電しますので3ヶ月に一度は充電を行ってください。)

■バッテリー残量表示の目盛りは、バッテリー容量がなくなる寸前まで表示されていますのでご注意ください。バッテリー残量マーク (バッテリーの容量が不足しています。使用をやめ、直ちに充電してください。のマーク) の際、操作をすると警告音がなります。バッテリーが不足していると、使用中に動かなくなる可能性があります。また、小型シール鉛蓄電池は容量が若干回復する特性があります。残量表示がなくなっても数時間すると表示することがあります。このような場合もすぐに充電をしてください。

■初めて使用する場合、バッテリーを新品と交換した場合、長期間使用しなかった場合は、必ず充電してからご使用ください。(20ページ「3.充電のしかた」参照)

■長時間充電しても動作時間が短い場合は、バッテリーの寿命に関係している可能性があります。販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。

■本製品はバッテリー駆動式です。充電コードプラグをコンセントに差したままの状態ではブーム・脚は動作しません。

2. バッテリー残量の確認

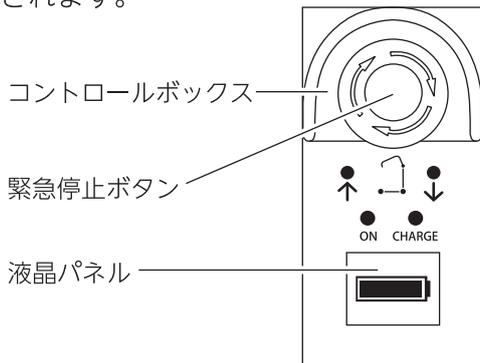


バッテリーの充電量に注意してください。バッテリーの充電量が不足していると使用中に動かなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりします。

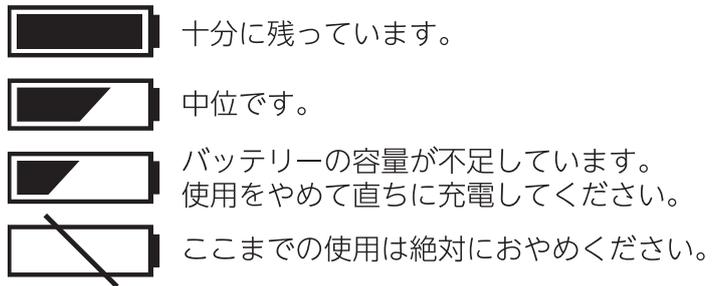


バッテリー残量を表示したままにしておきますと、バッテリーが消耗します。介護リフトを使用しないときは緊急停止ボタンを押込んで、バッテリー残量の表示を解除してください。

- ①緊急停止ボタンを解除した後、手元スイッチのボタンを1秒以上押し続けて手を離すと、バッテリー残量が表示されます。



【バッテリー残量表示】



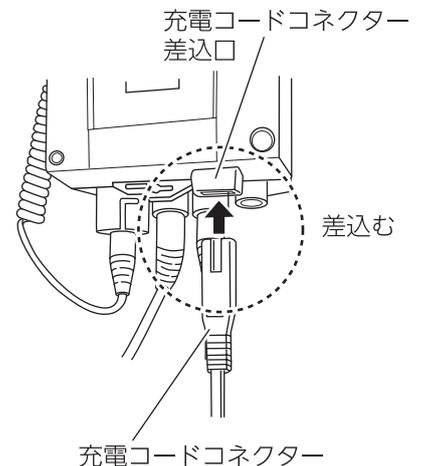
- ②バッテリーの容量が不足している場合は充電してください。
③介護リフトを使用しないときは、緊急停止ボタンを押込んでください。



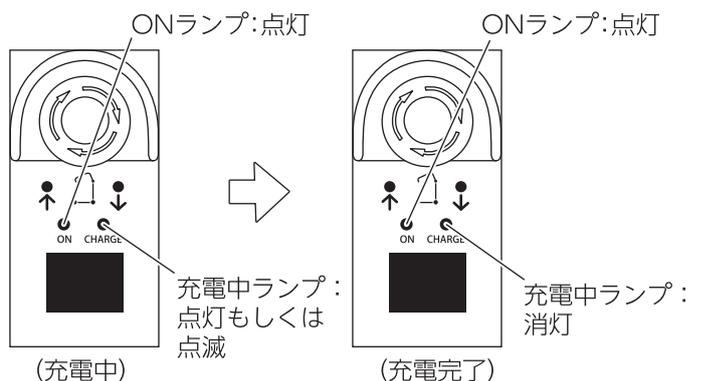
緊急停止ボタンを押込んだ状態、充電コードプラグをコンセントに差込んだ状態ではバッテリー残量は表示されません。

3. 充電のしかた

- ①コントロールボックスの緊急停止ボタンが押込まれていることを確認してください。解除されている場合は緊急停止ボタンを押込んでください。
②充電コードコネクタをコントロールボックス底部の充電コードコネクタ差込口に差込んでください。
③充電コードプラグをコンセントに差込んでください。ONランプと充電中ランプが点灯し、充電が開始されます。
④充電中ランプが消灯するまで充電してください。また、充電中ランプ消灯後も、介護リフトを使用するときまでは、常時充電状態にしておいてください。



- 充電中およびONランプ点灯中は、手元スイッチを操作しても介護リフトは動きません。充電コードプラグをコンセントに差した状態で手元スイッチのあがる・さがるボタンまたは開く・閉じるボタンを押すと、液晶パネルにコンセントマークが表示されます。
- 初めて使用する場合、バッテリーを新品と交換した場合、長時間使用しなかった場合は必ず充電してください。特にバッテリーを完全に使いきってしまった場合は、必ず24時間以上充電してください。



5 バッテリーの取扱いについて

4. バッテリー交換のしかた

※交換用バッテリーについてはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。

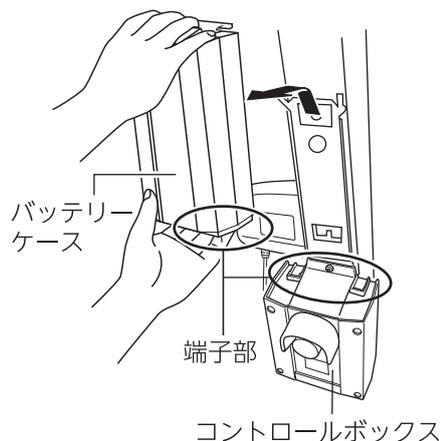
※バッテリーの交換についてご不明な点がございましたら、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)までお問い合わせください。



- 充電コードプラグをコンセントに差込んだ状態で、バッテリー交換作業をしないでください。感電のおそれがあります。
- バッテリーケースのカバーを取付ける際は、コードをはさまないように注意してください。コードが断線し、感電・火災のおそれがあります。
- バッテリーメーカーによっては、端子の位置が異なる場合があります。+・-の位置をご確認のうえ配線してください。間違って配線すると、ショートして感電・火災のおそれがあります。
- バッテリーは正しく配線してください。間違って配線すると、ショートして感電・火災のおそれがあります。



バッテリーケースやコントロールボックス、特に端子部に強い衝撃を与えないでください。変形し、通電しなくなるおそれがあります。



①バッテリーケースのレバーを握りながら、バッテリーケースを外してください。

②バッテリーケースのカバーの取付ねじ(6ヶ所)を星型レンチ(T20)で取外し、カバーを外してください。

注記! バッテリーケース以外のねじを外さないでください。

③バッテリーケース内からバッテリーを取出し、配線を取外してください。

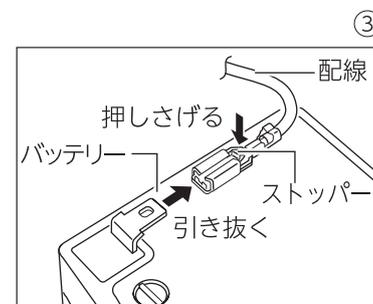
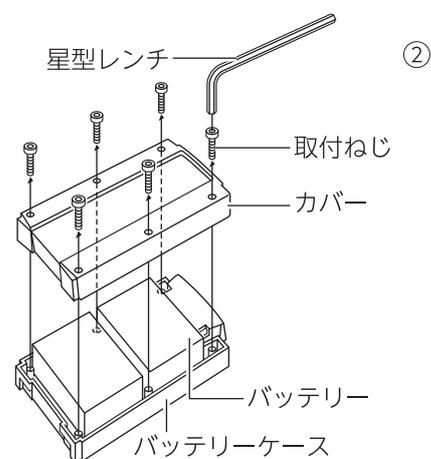
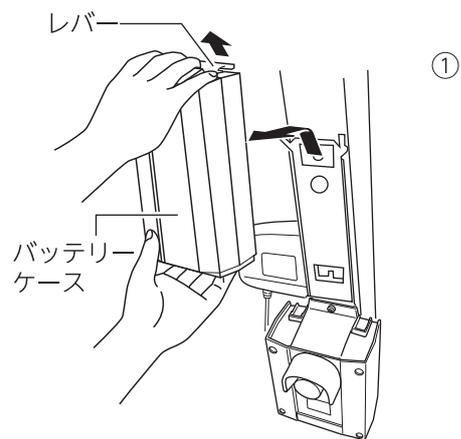
注記! 配線は、ジョイント部分のストッパーを押しさげながら外してください。無理に引き抜くと、断線のおそれがあります。

④バッテリーケースのカバー内側の配線図を参照して、新しいバッテリーを正しく配線し、バッテリーケース内に収納してください。

⑤バッテリーケースにカバーを、元通りに取付けてください。

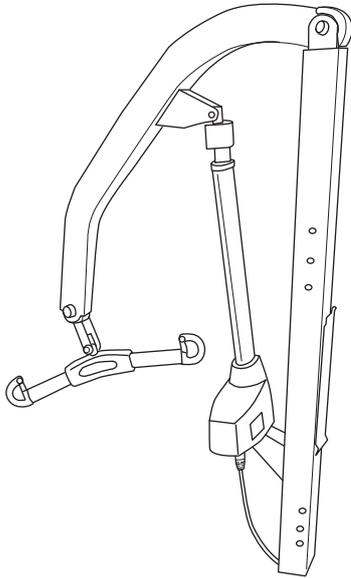
⑥バッテリーケースを元の位置に取付けてください。

⑦充電をしてください。(20ページ参照)

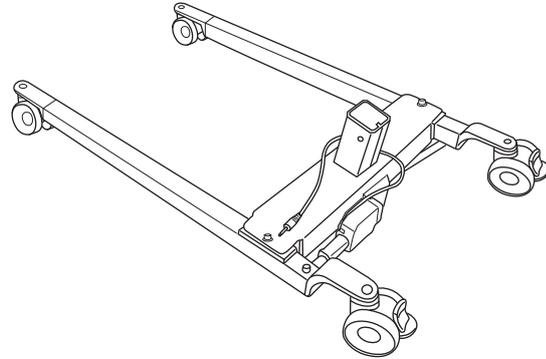


6 部品の確認

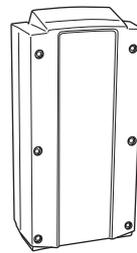
■この製品は組立式になっています。開梱後、下記の部品がすべて揃っていること、破損していないことを確認してください。万一、部品の不足や破損があった場合には、販売店または直接弊社までご連絡ください。



ブーム・支柱セット



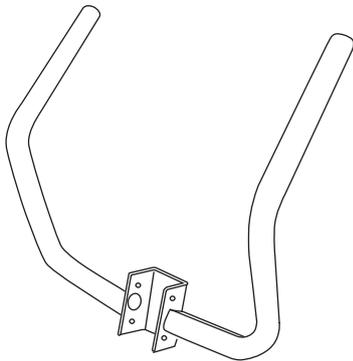
ベースフレーム



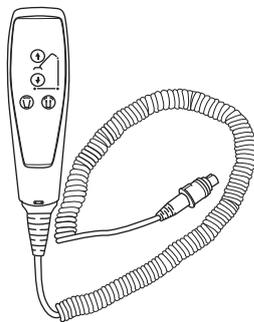
バッテリーケース



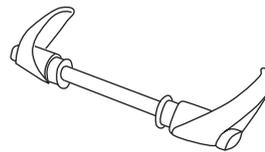
コントロールボックス



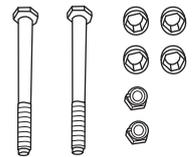
ハンドル



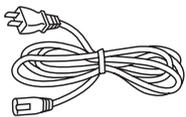
手元スイッチ



支柱高調節レバー



ボルト×2
ナット×2
キャップ×4



充電コード



取扱説明書

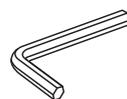


コード固定ベルト

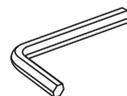
■使用工具 ※付属されていません。お客様でご用意ください。



●スパナ (対辺13mm)



●星型レンチ (T20)
※バッテリー交換をするときに用意してください



●六角棒レンチ (対辺3mm)

7 組立方法



組立て作業をするときは、ブーム・支柱セットの取扱いに注意してください。

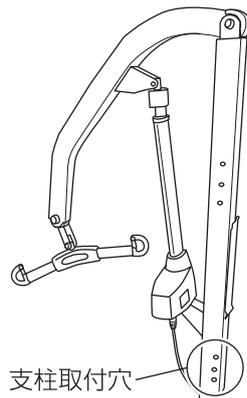
- ・ブーム・支柱セットが落下してけがをしたり、ブーム・支柱セットやゆかなどが破損・変形したりするおそれがあります。
- ・可動部のすき間に手や指などがはさまれてけがをするおそれがあります。
- ・ブーム・支柱セットが人に当たってけがをしたり、ベッドや家具などが破損・変形したりするおそれがあります。

1. ブーム・支柱セットの取付け

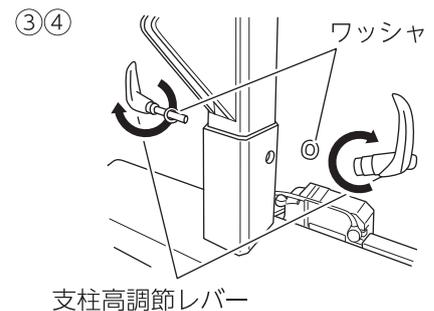
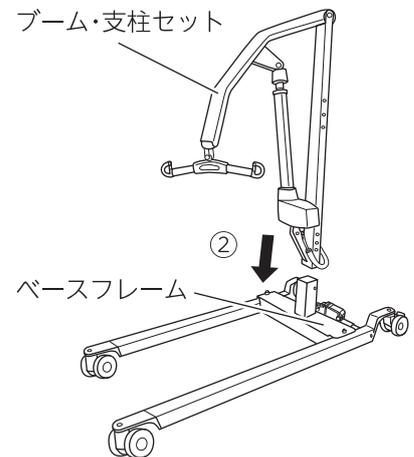
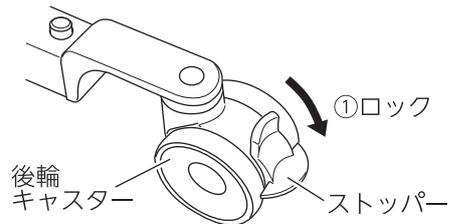
- ①後輪キャスターのストッパーをロックしてください。
- ②ブーム・支柱セットをベースフレームに差込んでください。



- ブーム・支柱セットはベースフレームに取付ける支柱取付穴の位置によって、5cmおきの3段階に高さ調節ができます。
- ブーム・支柱セットを少し傾けると、ベースフレームに差込みやすくなります。



- ③ブーム・支柱セットとベースフレームを支柱高調節レバーで仮止めしてください。
- ④支柱高調節レバーをしっかり締付けてください。



支柱高調節レバーは、確実に固定してください。使用中にベースフレームからブーム・支柱セットが外れ、けがをするおそれがあります。

7 組立方法

2. ハンドルの取付け

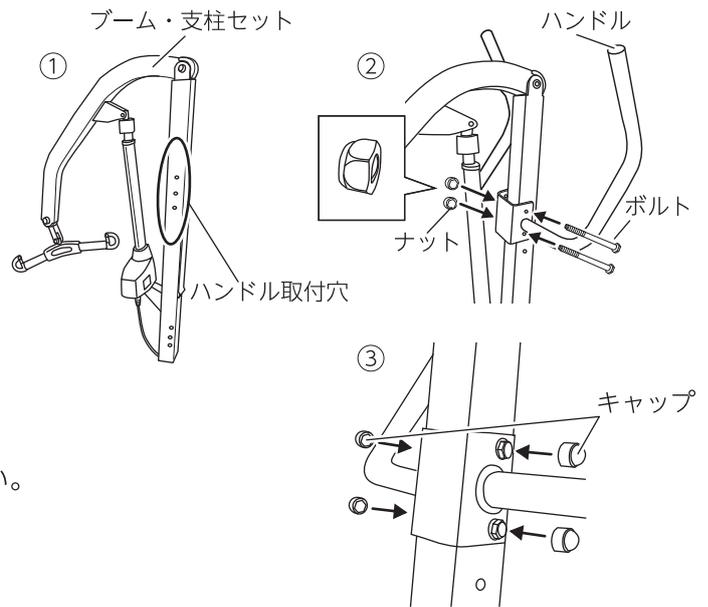
①ハンドルをブーム・支柱セットのハンドル取付穴に取付け、ナットの向きに注意しながらボルト・ナットで仮止めしてください。(上下2ヶ所)



ハンドルの高さは6cmおきの2段階に高さ調節ができます。お好みの高さに調節してください。

②スパナ (対辺13mm) を使用してボルト・ナットをしっかりと締付けてください。

③ボルト・ナットの頭部にキャップをはめてください。

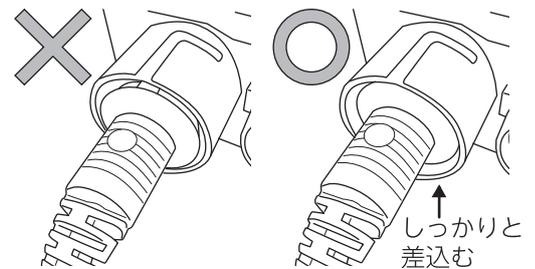
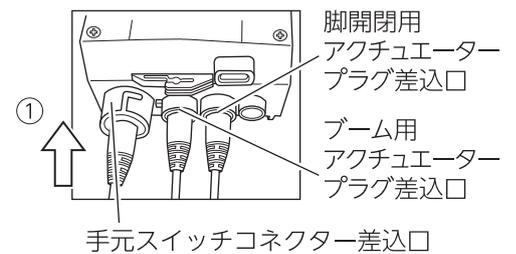


3. コントロールボックス・バッテリーケースの取付け

①コントロールボックス底部の手元スイッチコネクター差込口に手元スイッチコネクターを、ブーム用アクチュエータープラグ差込口にブーム用アクチュエータープラグを、脚開閉用アクチュエータープラグ差込口に脚開閉用アクチュエータープラグをそれぞれしっかりと奥まで差込んでください。

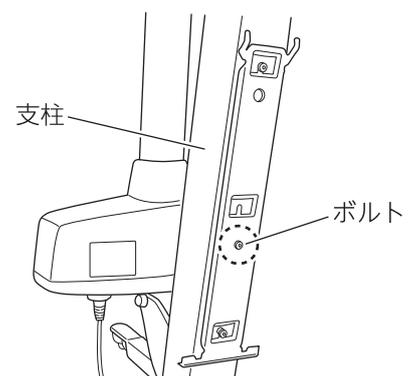


- コネクター・プラグがしっかりと奥まで差込んでいないと、手元スイッチで操作しても介護リフトは動きません。
- 手元スイッチコネクターが不意に外れないよう、差込口がきつくなっておりませんが、故障ではありません。

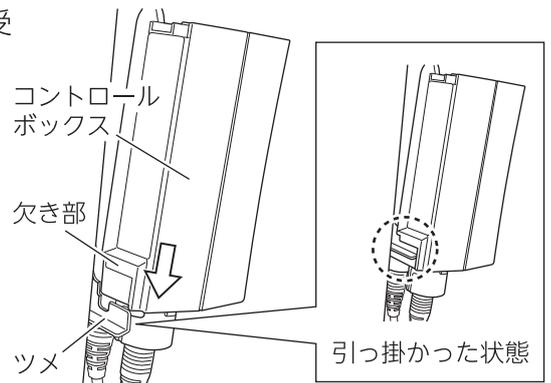


| | |
|--------------------|---|
| <p>けい 告</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーケースを濡れた手で取付け、取外ししないでください。ショートして感電したり、故障したりするおそれがあります。 ●手元スイッチコネクターやブーム用・脚開閉用アクチュエータープラグを濡れた手で抜き差ししないでください。ショートして感電したり、故障したりするおそれがあります。 |
|--------------------|---|

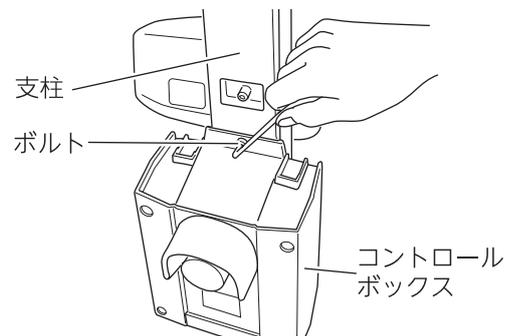
②支柱に付いているボルト (上から2つ目) を六角棒レンチ (対辺3mm) で取外してください。



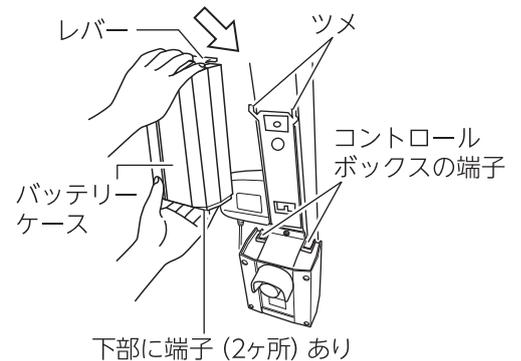
③コントロールボックス下部の欠き部をコントロールボックス受け部のツメに引っ掛けてください。(2ヶ所)



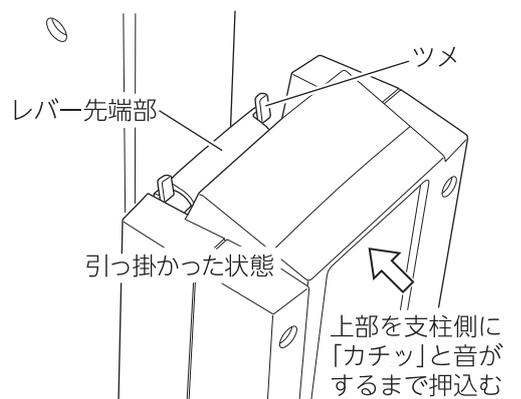
④②で外したボルトでコントロールボックスを仮止めし、六角棒レンチ (対辺13mm) でしっかりと締付けてください。



⑤バッテリーケースのレバーを握りながら、バッテリー下部の端子とコントロールボックス上部の端子をあわせ、バッテリー取付け部のツメにレバーの先端を引っ掛けてください。



⑥バッテリーの上部を支柱側に『カチッ』と音がするまでしっかりと押込んでください。



4. 組立後の確認

28ページ記載の「1.定期点検」に従って確認をしてください。異常がないことを確認した後、手元スイッチの「あがるボタン」と「さがるボタン」を同時に5秒以上押してください。(12ページ下部参照)



この作業を行わないと、使用開始後1年経過せずにコントロールボックスに  マークが表示される場合があります。

8 分解方法

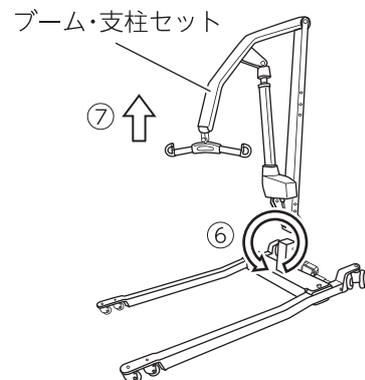
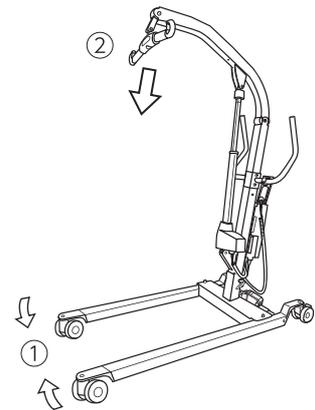
■介護リフトの分解は販売店にご依頼されることをおすすめします。



分解作業をするときは、ブーム・支柱セットの取扱いに注意してください。

- ・可動部のすき間に手や指などがはさまれてけがをするおそれがあります。
- ・ブーム・支柱セットが落下してけがをしたり、ブーム・支柱セットやゆかなどが破損・変形したりするおそれがあります。
- ・ブーム・支柱セットが人に当たってけがをしたり、ベッドや家具などが破損・変形したりするおそれがあります。

- ①手元スイッチ操作で脚をいっぱいまで閉じてください。
- ②手元スイッチ操作でブームを最低位置までさげてください。
- ③緊急停止ボタンを押込んでください。
- ④コントロールボックスから、脚開閉用アクチュエータープラグを抜いてください。
- ⑤ハンドルを固定しているボルト・ナットの頭部のキャップを外した後、スパナ(対辺13mm)を使用して、ハンドルを固定しているボルト・ナットを外し、ハンドルを取外してください。
- ⑥ブーム・支柱セットとベースフレームを固定している支柱高調節レバーを回し、ブーム・支柱セットを支えながら支柱高調節レバーを抜いてください。



支柱高調節レバーを抜く際は、ブーム・支柱セットを支えてください。ブーム・支柱セットを支えずに支柱高調節レバーを抜くと、ブーム・支柱セットが落下し、けがをしたり破損したりするおそれがあります。

- ⑦ブーム・支柱セットをベースフレームから抜いてください。



- バッテリーの消耗を防ぐために、長期間使用しない場合は、必ずコントロールボックスの緊急停止ボタンを押込んでから保管してください。
- 長期間使用しない場合は、その間の自己放電を補うため、3ヶ月に一度は充電を行ってください。完全に放電したまま放置すると、バッテリーの寿命が短くなります。

9 定期点検と日常のお手入れ

1. 定期点検

■安全にご使用いただくために、1年に1回は健常者の方に対して介護リフトを使用し、使用の安全性や介護リフトの動作などを点検してください。使用の頻度や環境により製品は摩耗・劣化します。定期的に各部のゆるみ、可動部の動作、破損、異音の有無などを点検してください。異常が認められた場合や詳しい点検をご希望される場合は、パラテクノコールセンター（34ページ参照）までお問い合わせください。

| | 操作内容 | 点検項目 |
|--------------------------|-----------------|--|
| 介護リフト 本体 | ブームの あげ・さげ操作 | 正常な操作ができること(13ページ参照) |
| | | 異常音や著しいがたつきがないこと |
| | 脚開閉の操作 | 正常な操作ができること(13ページ参照) |
| | | 異常音や著しいがたつきがないこと |
| | 緊急停止状態 | 緊急停止ボタンを押込んだ状態でブームのあげ・さげ操作および脚開閉の操作ができないこと(13～14ページ参照) |
| | 緊急手動さげ操作 | 正常な操作ができること(14ページ参照) |
| | 緊急電動あげ・さげ操作 | 正常な操作ができること(14ページ参照) |
| | その他 | ブーム・支柱セットが確実に固定されていること(24ページ参照) |
| | | 樹脂部品などに破損や変形、脱落がないこと |
| | | ラベルがはがれたり、文字が見えなくなったりしていないこと |
| ブームやベースフレームなどに亀裂や変形がないこと | | |
| ハンドルのがたつきがないこと | | |
| キャスター | 走行 | 介護リフトの走行時に異常音がしないこと |
| | | 介護リフトの走行時に著しいがたつきがないこと |
| | キャスターロック操作 | 正常な操作ができること(15・24ページ参照) |
| | | 操作が異常に重くないこと |
| | | ロック時に介護リフトが動かないこと |
| 電装品 | 電装品の目視確認 | コード類が介護リフトに絡まっていないこと |
| | | プラグやコードに傷などがいないこと |
| | | 手元スイッチやコントロールボックスなどに傷や破損がないこと |
| | 充電 | 充電中は充電中ランプが点灯もしくは点滅すること(20ページ参照) |

9 定期点検と日常のお手入れ

2. 日常のお手入れ



- 誤操作によるはさまれを予防するため、緊急停止ボタンを押込んでからお手入れを行ってください。
- 介護リフトに水をかけて掃除しないでください。ショートして感電するおそれがあります。

【汚れを落とす場合】

- 下記①～③の手順で行ってください。
 - ①水で薄めた中性洗剤にひたした布をよくしぼって拭いてください。
 - ②水でひたした布をよくしぼって、残った洗剤分を拭き取ってください。
 - ③乾いた布で残った水分を拭き取ってください。

【消毒する場合】

- 必ず下記の薬品を指定の濃度で各消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。

| | |
|------------|------------------------|
| 76.9~81.4% | 消毒用エタノール |
| ~0.2% | 塩化ベンザルコニウム (オスバンなど) |
| ~0.2% | 塩化ベンゼトニウム (ハイアミンなど) |
| ~0.05% | グルコン酸クロロヘキシジン (ヒビテンなど) |
| ~0.05% | 次亜塩素酸ナトリウム (ミルトンなど) |



- 揮発性のもの（シンナー、ベンジン、ガソリンなど）やクレゾールは使用しないでください。変色・変質させるおそれがあります。
- 消毒剤を使用する場合は、指定以外の薬品を使用しないでください。破損・変質するおそれがあります。
- 中性洗剤を使用した場合は、その後水拭きをしてください。水拭きをしないと樹脂の部分が割れるおそれがあります。



- オゾン殺菌器、オートクレーブ滅菌器などには対応できません。
- キャスターへの注油や分解によるキャスター内部の清掃はしないでください。

10故障かな？と思ったら

- 故障でない場合がありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。
- チェック・処置をしても正常に動作しない場合は、ただちに介護リフトの使用を中止し、コントロールボックスの緊急停止ボタンを押込み、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)まで修理をご依頼ください。
- 以下の症状により、電動でブームを上げられない場合は、緊急降下装置を操作しブームを上げてください。(14ページ参照)
- 地震・火災・水害などで被災した介護リフトは、販売店またはパラテクノコールセンター(34ページ参照)まで点検・修理をご依頼ください。電装品のショートや漏電による感電・火災、リフトの変形による動作の異常によって、けがをするおそれがあります。

| 症 状 | チェック | 処 置 | 参 照 ページ |
|---------------------|--|--|------------|
| 手元スイッチを押しても動かない。 | ブーム用・脚開閉用アクチュエータープラグがコントロールボックスのブーム用・脚開閉用アクチュエータープラグ差込口に差込まれていますか？ | ブーム用・脚開閉用アクチュエータープラグをコントロールボックスのブーム用・脚開閉用アクチュエータープラグ差込口に、しっかり差込んでください。 | 3・25 |
| | 手元スイッチコネクタがコントロールボックスの手元スイッチコネクタ差込口に差込まれていますか？ | 手元スイッチコネクタをコントロールボックスの手元スイッチコネクタ差込口に、しっかり差込んでください。 | 3・25 |
| | 緊急停止ボタンが押込まれていませんか？ | 緊急停止ボタンを矢印方向にまわして解除してください。 | 12 |
| | 室内の温度が低くありませんか？(5℃未満) | 温度が5℃以上にあがってからご使用ください。 | 10 |
| | 充電コードプラグがコンセントに差込まれたままになっていませんか？ | 充電コードプラグをコンセントから抜いてください。 | 20 |
| | バッテリーの残量が少なくなっていますか？ | 充電をしてください。 | 20 |
| | バッテリーが寿命になっていませんか？ | バッテリーを交換してください。 | 21・22 |
| | ブームに下から力が加わっていませんか？ | ブームに力を加えるもの(障害物など)を削除してください。 | 13・14 |
| コントロールボックスから警告音が鳴る。 | バッテリーの残量が少なくなっていますか？ | 充電をしてください。 | 20 |
| | バッテリーが寿命になっていませんか？ | バッテリーを交換してください。 | 21・22 |
| 脚開閉の操作ができない。 | 後輪キャスターのストッパーがロックされていませんか？ | 後輪キャスターのストッパーのロックを解除してください。 | 15 |
| 介護リフトの移動ができない。 | 後輪キャスターのストッパーがロックされていませんか？ | 後輪キャスターのストッパーのロックを解除してください。 | 15 |

- 修理のご依頼やお問い合わせの際は、製品識別表示ラベル(3ページ参照)に表示された番号もあわせてご連絡ください。

11 長期保管について

■長期にわたり介護リフトをご使用にならないときは下記の点にご注意ください

- 高温・多湿・低温・乾燥・ほこりの多い場所を避けてください。
温度-10～50℃、湿度20～90%RH の環境で保管してください。
- 取扱説明書を紛失しないよう、大切に保管してください。
- 3ヶ月に一度は必ず充電してください。

■組みあがった状態で介護リフトを保管する場合

- ブームを最低高さにしてください。
- 脚をいっぱいまで閉じてください。
- 介護リフトは水平なゆかに水平のまま保管してください。
- 充電コードプラグをコンセントから抜いて、充電コードをはさんだり踏んだりしない場所に束ねておいてください。
- 緊急停止ボタンを押込んだ状態にしてください。

■分解して保管する場合(介護リフトの分解は販売店にご依頼されることをおすすめします)

- 27ページ【8分解方法】に従って分解・保管してください。
※使用を再開する場合は、24～26 ページ【7組立方法】に従って正しく組立ててください。

仕様

| 品名 | | 床走行式電動介護リフト | |
|-------------------|-------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 品番 | | KZ-A78700 | |
| 最小回転直径 (cm) | | 134 | |
| 梱包サイズ (cm) | | 134×73×34 | |
| 製品質量 | 総質量 (kg) | | 34 |
| | 主な構成部品の質量 | ブーム・支柱セット (kg) | 14 |
| | | ベースフレーム (kg) | 20 |
| | 梱包質量 (kg) | | 41 |
| 安全使用荷重*1) | | 2000N(205kgf) | |
| 電撃に対する保護の形式 | | クラスⅡ機器／内部電源機器 | |
| 電撃に対する保護の程度 | | B形装着部 | |
| 水の有害な浸入に対する保護の程度 | | IP×4 | |
| 電源 | 電源電圧、周波数 | | AC100V、50/60Hz |
| | 消費電力 | | 168W以下 |
| | 充電装置 | | 充電時 最大 21W 内蔵 |
| リモコン操作荷重 | | 4N(0.4kgf) | |
| バッテリー | 型式・個数 | | 小型シール鉛蓄電池 12V・2.9Ah 2個 |
| | 定格容量 | | 2.9Ah(20時間率) |
| アクチュエーター | モーター形式 | | DCブラシ付モーター |
| | 定格電圧 | | DC24V |
| | 最大連続使用時間 | | 2分(休止時間 18分*2) |
| | ブーム用アクチュエーター昇降速度 | | 3.4cm/秒(無負荷)*3) |
| | 脚開閉用アクチュエーター開閉速度 | | 3.7cm/秒(無負荷) |
| | ブーム用アクチュエーター最大持上力 | | 10000N(1020kgf) |
| 脚開閉用アクチュエーター最大開閉力 | | 1500N(153kgf) | |
| 騒音水準 | | (荷重時)吊上げ時 75dB(A)／降下時 53dB(A) | |
| 動作保証条件 | | 温度 | 5～40℃ |
| | | 湿度 | 20～90%RH |
| 耐用期間 | | 8年 ただし消耗部品は除く | |
| 前輪キャスター | | φ100mm 双輪キャスター(ストッパーなし) | |
| 後輪キャスター | | φ100mm 双輪キャスター(ストッパー付) | |
| 材質 | 支柱・ブーム | | アルミニウム製 |
| | ベースフレーム | | アルミニウム製 |
| 製造元 | | Handicare AB (Sweden) | |

*1) 安全使用荷重:介護リフトを安全に使用できる荷重。(使用者体重とオプションなどの付帯物の合計荷重)

*2) 介護リフトを最大連続使用時間(2分)動作させた場合、電装品を過熱から保護するための時間。

*3) ハンガーの昇降速度を示しています。

■本製品では以下のシンボルが使用されています。



B型機器



取扱説明書を参照



電気電子機器廃棄物



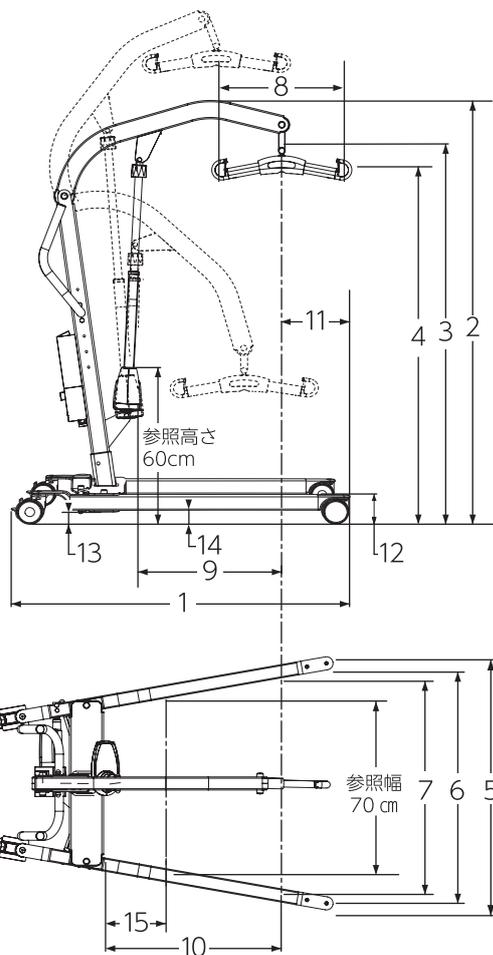
室内仕様

IP×4 保護等級



クラスⅡ機器

12仕様



| | 一番上の取付穴 | 真ん中の取付穴 | 一番下の取付穴 | 図の番号 |
|-----------------------------------|-----------|-----------|-----------|------|
| 全長(cm) | 130 | | | 1 |
| 全高(cm) | 132 ~ 196 | 137 ~ 201 | 142 ~ 206 | 2 |
| ハンガー高さ(cm) | 62 ~ 185 | 67 ~ 190 | 72 ~ 195 | 3 |
| ハンガーフック高さ(cm) | 52 ~ 175 | 57 ~ 180 | 62 ~ 185 | 4 |
| 全幅(cm) | 65 ~ 102 | | | 5 |
| 脚内側の幅(cm) | 55 ~ 92 | | | 6 |
| 最大水平距離での脚内側の幅(cm) | 74 | | | 7 |
| ハンガーフック幅(cm) | 45 | | | 8 |
| 参照高さ60cmでの最大水平距離(cm) | 59 | | | 9 |
| ベースフレームからの最大水平距離(cm) | 63 | | | 10 |
| 脚開状態での壁からハンガー中央までの距離(cm) | 最大高さのとき | 47 | | 11 |
| | 最大水平距離のとき | 22 | | |
| | 最小高さのとき | 41 | | |
| 脚高さ(cm) | 11.5 | | | 12 |
| ベースフレームとゆかのクリアランス(cm) | 1.7 | | | 13 |
| 脚とゆかのクリアランス(cm) | 1.6 | | | 14 |
| 脚開状態における参照幅70cmでのベースフレームからの距離(cm) | 33 | | | 15 |

※ブーム・支柱セットの取付位置により、全高・ハンガー高さ・ハンガーフック高さは異なります。

13 アフターサービスについて

1. 保証書

保証書は、必ず「販売店・お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

販売店名・お買い上げ日の記入が無い場合は、品番・販売店・お買い上げ日が確認できるように、製品をお買い上げの領収書などを保証書と一緒に保管してください。

2. 修理を依頼される時

修理のご依頼は、お買い上げの販売店または弊社製品の修理受付窓口であるパラテクノコールセンター（下記参照）までご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

- 品名、品番、製品識別表示ラベルの番号（3ページ「2 各部の名称」参照）
- お買い上げ日
- 破損または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 施設名、お名前、ご住所および電話番号

■消耗部品について

- キャスター・バッテリー・手元スイッチは消耗部品です。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間が過ぎているとき

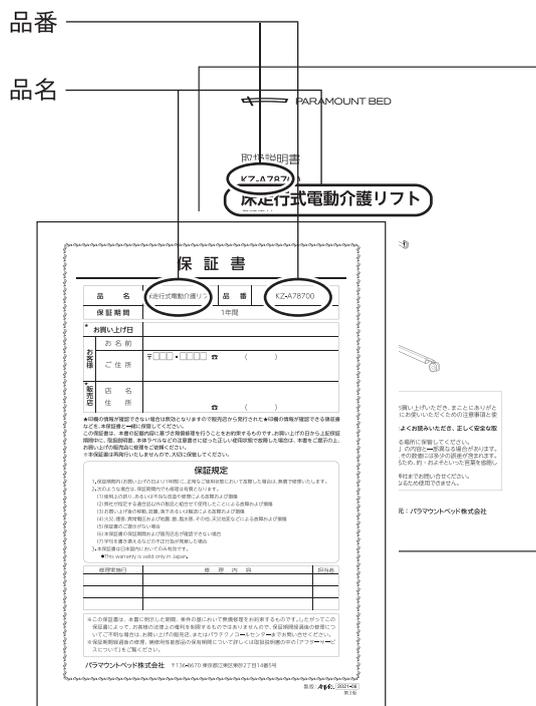
修理により使用できる製品については、ご希望により有償で修理いたします。

3. 部品の最低保有年数は

弊社ではこの介護リフトの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間を製造打ち切り後8年としております。

4. アフターサービスについてご不明な場合

お買い上げの販売店またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。



パラテクノコールセンター ☎ 0120-54-8639

受付時間：平日 8:00～18:00 / 土・日・祝日 9:00～17:00（年始は休業いたします）

【パラテクノ株式会社について】 弊社製品の修理や保守点検などの各種サービスを実施する会社です。

パラマウントベッド株式会社

| | | | |
|--------|-----------|-----------------------|-----------------------|
| 本社 | 〒136-8670 | 東京都江東区東砂 2丁目14番5号 | ☎ (03) 3648-1111 (大代) |
| 東京支店 | 〒136-8670 | 東京都江東区東砂 2丁目14番5号 | ☎ (03) 3648-1171 (代) |
| 札幌支店 | 〒060-0062 | 札幌市中央区南2条西13丁目318番地11 | ☎ (011) 271-1181 (代) |
| 仙台支店 | 〒984-0015 | 仙台市若林区卸町2丁目3番地の3 | ☎ (022) 239-5211 (代) |
| さいたま支店 | 〒336-0967 | さいたま市緑区美園3丁目23番1 | ☎ (048) 878-0100 (代) |
| 横浜支店 | 〒194-0004 | 東京都町田市鶴間5丁目3番33号 | ☎ (042) 795-8800 (代) |
| 名古屋支店 | 〒461-0001 | 名古屋市東区泉1丁目20番17号 | ☎ (052) 963-0600 (代) |
| 大阪支店 | 〒550-0001 | 大阪市西区土佐堀2丁目3番33号 | ☎ (06) 6443-8791 (代) |
| 広島支店 | 〒733-0011 | 広島市西区横川町3丁目8番5号 | ☎ (082) 293-1311 (代) |
| 福岡支店 | 〒812-0013 | 福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号 | ☎ (092) 461-1131 (代) |

保証書

| | | | |
|----------|-------------|--------------------|-----------|
| 品名 | 床走行式電動介護リフト | 品番 | KZ-A78700 |
| 保証期間 | 1年間 | | |
| ★ お買い上げ日 | | | |
| お客様 | お名前 | | |
| | ご住所 | 〒□□□□ - □□□□ ☎ () | |
| ★販売店 | 店名 | | |
| | 住所 | ☎ () | |

★印欄の情報が確認できない場合は無効となりますので販売店から発行された★印欄の情報が確認できる領収書などを、本保証書と一緒に保管してください。

この保証書は、本書の記載内容に基づき無償修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルなどの注意書きに従った正しい使用状態で故障した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

※本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

保証規定

- 保証期間内(お買い上げの日より1年間)に、正常なご使用状態において故障した場合は、無償で修理いたします。
- 次のような場合は、保証期間内でも修理は有償となります。
 - 使用上の誤り、あるいは不当な改造や修理による故障および損傷
 - 弊社が指定する適合品以外の製品と組合せて使用したことによる故障および損傷
 - お買い上げ後の移動、設置、落下あるいは輸送による故障および損傷
 - 火災、煙害、異常電圧および地震、雷、風水害、その他、天災地変などによる故障および損傷
 - 保証書のご提示がない場合
 - 本保証書の保証期間および販売店名が確認できない場合
 - 字句を書き換えるなどの不正行為が発覚した場合
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
 - This warranty is valid only in Japan.

| 修理実施日 | 修理内容 | 担当者 |
|-------|------|-----|
| | | |
| | | |
| | | |

※この保証書は、本書に明示した期間、条件の基において無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書の中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

パラマウントベッド株式会社 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号